

- ① すずき・たかし、と申します。四谷の主婦会館プラザエフ6階に位置する公益財団法人生活協総合研究所（1989年設立、消費者のくらしと生協を中心のテーマとする研究所、現在職員は16人。刊行物としては月刊誌『生活協同組合研究』、年3～4刊の『生協総研レポート』がある。また、「ロバート・オウエン協会」の事務局も担当している）で、現在は研究員と編集長を兼任しております。もともとの専門はフランスの社会思想と協同組合史でした。但し、フランスでは現在かつて存在感を示していた消費協同組合（生協）は1980年代半ばに崩壊してしまい、それと相前後した小規模なビオ・コープが活動している状況なのですが。
- ② A.ソウルの2回の大会に参加したときもそうでしたが、今回のモンREALも個人的には開催地の一般的状況や歴史を、若干でも調べる非常によい機会となりました。
- B.いまのGSEFの主要自治体を見てみると、キリスト教カトリックに親和性が強い気がいたします。かつケベックやバスクなど、国家のなかでも独特の位置にあった地域とGESFが親和性を持つように思いました。
- C.今回も62か国からの多くの人々を集めたことに敬意を表します。先住民のかたの発言は印象的でした。また、モンREAL市とデジャルダン・グループの強力な支援を感じました。
- D.多様な社会的経済の試みが展示パネル方式で紹介されており、興味深くみました。また、開催中のフリーペーパーには社会的経済方式で運営される飲食店が説明文とともに紹介されておりました。さらに、テレビや地元有力紙でGSEF大会と社会的経済の紹介が特集されていたのは、さすがに先進地域と感じました。
- ③ ④ 次のようなことを考えてみました。
- A.協同組合や社会的経済の認知度をどのように高められるものか。
- B.しかし何故これまでA.がうまくいかないのか。反省点はどこにあるのか。果たして今後の具体的な戦略はあるのか。きちんと生活のできる組織になりうるのか。所詮は内向きの運動に過ぎないのか。きつい言い方をすれば、若者をあおって大丈夫なのか。
- ⑤ 大変難しいとは思いますが、
- A.バスクといえばモンドラゴンとなりましようから、ファゴール家電倒産以後の動向や情報を（例えば農林中金の立派な報告はありますが）、より、つかみたいところです。
- B.GSEFで参加しなかった日本の自治体との関係をどのように考えるのか（わたくしは現在の状況での公との連携が必ずしも肯定的に考えてはおりませんが）。これも悩ましいところでしょうか。